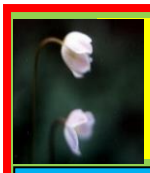

2022.7.10

ニリンソウ自生地保護活動情報

赤塚公園ニリンソウを守る会
akatsukanironso@gmail.com
都立赤塚公園
サービスセンター
03-3938-5715
編集責任：運営サポーター／木村

Since 1982 ニリンソウ保護活動40周年

赤塚公園ニリンソウを守る会 活動予定

８月はお休みです　９月から再開

９月 11 日 （日） 10:00 大門観察台に集合

◎秋の自生地手入れ計画立案のための現場での話し合い＋簡単な手入れ＋どんぐりまつりの練習

※雨天中止　＊予定変更の場合あり

★ニリンソウを守る会は大門地区のニリンソウ自生地などの手入れ活動を行っています。参加者個々人の自主活動の集まりで、誰でも参加できます。　※問合せ：左記赤塚公園サービスセンターへ

ニリンソウの林👪夏の手入れ

7/10も🌿ヤブミョウガ🌿を抜き取り

ご存知のようにニリンソウは春植物。３～４月の開花期を終わると、５月にはもう地上部分の葉は枯れてしまって、翌年２月の展葉期までは地面の下で「根茎」という形で生きていきます。一面の白い絨毯が広がっていた林はニリンソウシーズンが過ぎると他の野草でいっぱいになります。でも、ここはニリンソウだけを大事にしている林ではありません。**たくさんの種類の植物が生きていて**、その植物の花の蜜を吸ったり葉や実を食べて生きている**昆虫類や野鳥その他や動物もいて**、たくさんの生き物が**お互いに依存しあいながら生きている**、その環境を保っている林、つまり**生物多様性が保たれている環境づくり**が、ニリンソウ保護活動の目指すことなのです。

だから、ここでの草刈りなどの手入れ活動は「生えている植物を出来るだけたくさん生かす」こ

とが目的となります。そうはいっても、他の植物が生きにくくなってしまう植物もあるので、その植物に適度に「ご遠慮いただく」のが夏場の保護活動の基本となります。今年は、放っておけば全面に広がってしまうヤブミョウガの抜き取り作業を中心に手入れ活動を行いました。

ヤブミョウガの抜き取りは昨年から２年越しの課題となりましたが、来年はウバユリやヌスビトハギなどが「ご遠慮対象」になるかもしれません。毎年、林の様相を観察しながら、その時々のテーマを決めていくことになります。

だから、ここでの手入れ活動は草刈り機で一斉に刈り取ってしまう方法は適さないのです。保護活動を担ってくれているボランティアはここのところ毎回 20 名近くですが、まだまだ人手が足りません。昨年はサービスセンタースタッフが刈り払い機を使って手入れ活動を応援、今年もその予定ですがもっと人手が増えればもっと丁寧な保護活動が出来るようになります。みなさまのご参加、よろしくお願いいたします。

冬の種殻の林立まで楽しめるウバユリ　もう咲きはじめました

草をかき分けるとナガバジャノヒゲの根元には花が咲いていました

ヤブマオは最近増加傾向です

セキショウはシダ類やコクサギに押され気味。でも、7/10 はここまで手が回りませんでした

1 ㎡の方形区の植物調べ

写真のように一定の区画の中にどんな植物が生きているかを調べる調査ですが、6/12 の例会でテスト実施したところ好評でした。7/10 は５班で８か所、記録を残しながら行いました。

いつものモニタリングは花をつけている植物中心の観察活動ですが、この方形区調査は開花しているかどうかに関係なく、そこにある植物を全部調べます。間近に意識して観ることにより、種名を覚えやすくなるので、これからも折に触れおこなっていこうと思います。

集められた記録票は回収して、別途エクセルのデータにまとめてありますが、次のことがわかりました。

① 近年保護事業が展開されるようになったロープ柵内の A、B、C のグループよりも、もともとニリンソウ保護活動で手入れがおこなわれていた擬木柵内のグループ D の方が生育している植物の種数が多いのは当然のことではあるが、今後の保護活動によってロープ柵内でも多様な植物の生育が可能であると考えられる。

② 通常、一般的に、「草がたくさん生えている場所」でも、春の季節に７種ぐらいの植物が観察されるのが普通なのだが、B-1 方形区では 10 種が確認されていて、季節要因を加えると、生物多様性保護エリア（ロープ柵内）の野草の展開状況は「良い」と言える。

③ ロープ柵内 C-1 方形区ではミズタマソウ、ダイコンソウの生育が見られたので、手入れ方法は工夫が必要である。